

医療廃棄物処理を支援

ラオスで豊川の加山興業

提案をJICAが採択

産業廃棄物の収集や処分を手掛ける豊川市の加山興業（加山順一郎代表取締役）が、ラオスのビエンチャン市での医療廃棄物処理を支援することになった。国際協力機構（JICA）によって同社の提案が採択された。

は環境を重視して廃棄物処理条例の制定を目指しているが、処理能力を超える医療廃棄物が未処理のまま埋め立てられるなど、不適切な処理が問題となっていた。

ム」で、分別徹底や再資源化を行っている。これをビエンチャン市でも実施することで、安全で効率的な処理が期待されている。

・処分の実態を調査。廃棄物を適切に焼却・乾燥する施設や機材の整備、運用方法の技術移転を目指す。

中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業」案件化調査」として実施され、発展途国の開発ニーズと日本の企業の優れた製品

加山興業は多様な廃棄物処理技術を駆使した独自の「統合廃棄物処理システム

まず現地の医療廃棄物の排出元である医療機関での分別状況や収集運搬過程における課題、最終処分場における処理

・技術などとマッチングさせ、情報収集や事業計画立案を支援することを目的としている。2012

年度から実施され、今年度は117件の応募から35件が採択された。

（由本裕貴）